D-14　コロナ禍における学生の人間関係と学習意欲・満足度の相関に関する調査

田邊恵司、石神遼吾、大西零、菊池亮介、小島優奈、小原真樹、小林拓、近藤圭佑、田村大地
土屋智洋、原晶太朗（信州大学医学部）、水木将（信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室）、
塚原照臣（信州大学医学部産業衛生学講座）、野見山哲生（信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室）

キーワード：COVID-19、大学生の学習意欲、人間関係、大学生活満足度、因子分析

要旨：2020 年 10 月に信州大学医学部の第 1 学年から第 3 学年の学生を対象にアンケート調査を行い、学生の生活や人間関係に関する満足度と学習意欲等の関係について因子分析を用いて分析した。その結果、学生の人間関係への満足度や学習意欲に学年による違いが生じていることが分かった。また、そうした心理的な因子の間の関係にも、学年による違いがみられ、COVID-19 感染対策による授業のオンライン化などが、学生の生活・学習環境やその感じ方へ大きな影響を与えていることが明らかになった。

A. 目的

2020 年は COVID-19 感染対策のため、大学における授業はほとんどがオンライン化され、サークル活動などの学生どうしのアクティビティも大きく制限された。そうした影響が学生の生活や学習意欲にどのように影響を与えているのか、ということに興味を持った。大学生における学習意欲に関する先行研究はいくつかみられるが、その中でも友人関係が、生活満足度および学習意欲に関連するか、関連するとしてプラスに働くのかマイナスに働くのか、といった点については意見が分かれている[1) 2)]。こうしたことを踏まえて、とくに学生の人間関係に対する満足度と学習意欲の関係を中心として調査した。

B. 方法

調査対象者：2018 年度～ 2020 年度に信州大学医学部医学科に入学した学生を対象とした。

調査方法：Google フォームによるオンラインアンケート（期間 2020 年 10 月 7 日～ 12 日）

（1）属性に関する質問：学年、性別、年齢、経歴（現役、1 浪など）、出身地、住居の 6 項目

（2）人間関係と学習意欲・満足度の相関に関わる質問 75 個の質問項目を用意した。質問項目には、先行研究として QOCL（Quality of College Life）という尺度について日本の大学生・大学院生を対象に検証した研究[3)]と、大学生活満足度短縮版（SoULS-21）[4)]をベースとし、その上で、現在の状況や医学生の生活から考えられる項目について加えて 75 項目とした。また、これらを事前の準備としていくつかのグループに分類し、これを因子負荷の仮説とした。選択肢は「全く当てはまらない」～「かなり当てはまる」の四件法であった。また、大学生活に関する総合的な満足度については 5 段階での記入とした。

これらの結果を因子分析法によって因子得点へ換算し、その関係性について構造方程式モデリングによるモデル化によって検討した。

C. 結果

調査対象のうち、第 1 学年 80 名、第 2 学年 11 名、第 3 学年 92 名から回答を得た（表 1）。

表 1

学年	母数	男性	女性	計	回収率
1	125	45	35	80	64%
2	126	5	6	11	9%
3	116	64	28	92	79%
計	367	114	69	183	50%

（1）因子分析

Q1 から Q75 のうち Q41（サークル所属）、Q34（パートナーの有無）を除く項目を、大学生活に関わる項目（Q1 から Q58）とパーソナリティに関わる項目（Q59 から Q75）に分けて因子

分析した。

大学生活に関わる項目について、最尤法による因子抽出（因子数10）・独立クラスター回転を行った（適合指標：RMSA0.04/RMSEA0.037（90% 信頼区間 0.031-0.044））。その結果、因子としてF1-F10の10因子を得た（表２）。

表２　因子命名表および学年ごとの平均値
（* p<0.05 で有意差を認めた変数）

変数	因子	第3学年	第1学年
Q76	総合満足度	3.674	3.575
F1	大学への期待度*	-0.205	0.252
F2	人間関係満足度*	0.253	-0.221
F3	積極性	0.094	-0.093
F4	周囲からのサポート*	-0.266	0.271
F5	不安感	-0.093	0.109
F6	孤立感*	0.141	-0.200
F7	学習意欲*	-0.167	0.202
F8	コンプレックス*	0.093	-0.148
F9	コロナの影響*	0.249	-0.325
F10	経済的負担	0.042	-0.029

主要な違いをまとめると、大学の総合満足度は第３学年の方が高いが、大学への期待感は低い。また、第３学年の方が人間関係の満足度は高いが、周囲からのサポートは足りないと感じていた。また、学期当初よりほとんど通学ができない状態であったが、第３学年の方がより孤立感を強く感じており、入学時よりその環境であった第１学年の方が孤立感を感じていない結果となった。

（２）因子間の関係についての分析

回収率が悪かった第２学年を除き、第１学年と第３学年について、その因子得点を比較すると前述のように大きな違いが見られた。そこで、因子どうしの関連にも違いがあるのではないかと考え、構造方程式モデリングによる多母集団同時解析を行い、それぞれの集団における因子間の相関関係を比較した。総合満足度（5点満点）を非説明変数としたが、因子F7（学習意欲）と総合満足度の相関が低かったので、これも非説明変数に加え、他の変数を説明変数としたモデルを考えた。その結果、第１学年と第３学年では両変数に対する、F2（人間関係への満足度）の影響の仕方が逆の結果となった。つまり第３学年では人間関係が良好なほど学習意欲が高かったが、第１学年では人間関係満足が高いほど学習意欲が低いという結果となった。

D. 考察

学生の総合満足度と学習意欲の相関が小さかったことは予想外の結果であったが、これ自体がコロナ禍において学生生活が大きく変化したことの結果と考えた。また、それまでの大学生活のなかで人間関係があるていど構築され、学習においても協力的な関係ができていた第３学年と、入学当初から通学の機会がほとんどないままオンライン授業となった第１学年では、その学習環境やスタイルに大きな違いができたということが考えられた。

E. まとめ

社会に多大な影響を及ぼしたCOVID-19の流行は、大学のあり方にも大きなインパクトを与えた。すくなくとも、2020年以前から在学していた学生と2020年の新入生では、その学生生活の環境やそのなかでの感じ方に大きな違いが生じているということが今回の調査から考えられた。

F. 利益相反

利益相反なし。

G. 文献

1) 永井 正洋, 北澤 武, 上野 淳 他：大学生の学習意欲, 大学生活の満足度を規定する要因について. 日本教育工学会論文誌 32 (2) :189-196. 2008.

2) 大対 香奈子：Pa020 大学生活充実感を規定する要因の検討（学校心理学, ポスター発表 a）. 日本教育心理学会総会発表論文集 56:175. 2014.

3) 福盛 英明：大学生の Quality of College Student Life を測定する「学生生活チェックカタログ45」の信頼性・妥当性の検討. 健康支援 17 (2) :31-39. 2015.

4) 奥田 亮, 川上 正浩, 坂田 浩之　他：大学生活充実感に関する研究 (1) 日本心理学会大会発表論文集. 74:2AM057-2AM057. 2010.